

六年生のみなさん、卒業おめでとうございます。

1093、何の数字かわかりますか。

これは入学した日から今日まで、高洲三小で過ごした日数です。

みなさんは平成二十九年度に入学しました。昇降口に「だるま」があったことを覚えていますか。

それは当時の校長先生が入学式で紹介してくださったものです。

小学校生活では失敗すること、友達とけんかをしてしまうことがある。そんな時は、この「だるま」のように、くじけずに何度でも起き上がる子になってほしい。

そういう願いがこめられていたものでした。

からだ中から絞り出すような応援の音が轟いた日、長柄の山に笑い声が響いた日、月明かりの中、炎を囲んで歌い踊ったあの日、そんなたくさんの「楽しい出来事」が思い出されます。ですが、1093日の中には、腹が立った、寂しかった、友達を傷つけてしまった。そんな「つらい出来事」もあったはずです。

みなさんはそのたび起き上がって、今日という日を迎えました。

がんばりましたね。

みなさん、静かに後ろを向いてください。おうちの人はみえましたか。しばらくそのまま聞いていてくださいね。

あなたが目をつぶり、ぎゅっと手を握り締めてこの世の中に生まれてきた瞬間から、目の前にいらっしゃるお父さんやお母さんは、あなたを見守ってきました。どうして泣いているのかわからずに困った夜、けがをした日、泣いて帰ってきた日、そんなあなたの様子に、あるときは、はらはらし、あるときはほっとして、あなたと一緒に過ごしてきたのです。

あなたが、どれほど背が高くなっても、大人びた口調で話すようになって、小さな手で私たちの指を握り返してきたその感触を、私たち親は、忘れません。あなたが生まれしてきたとき、すべてのものに感謝したくなるような感覚に自分の心が満たされたことを私たち親は、忘れません。

それが親の心、親の愛情です。いつか今よりもっとわかる日が来ます。

その日が来るまでは一生懸命想像してください。

保護者のみなさま、子どもたちと同じように、みなさんにも「楽しい出来事」も「つらい出来事」もおありのことでしょう。言葉をぐっと飲みこんだこと、正解のない親としての在り方に悩んだことも一度や二度ではないはずです。

お父さんもお母さんもがんばりましたよね。本当にお疲れさまでした。

前を向きましょう。

さてみなさん、

これからの日々には、これまでと同じように「楽しい出来事も、つらい出来事も」起こります。

そして、私たちは、人生に起こる様々な出来事を選ぶことはできません。

けれども、わたしたちは、「その出来事にどう反応するか」ということは選べます。

つらい出来事に会ったときに、下を向いてそこに立ち止まるのか、起き上がり、自分の力に変えて、先へすすむのかは自分で決めることができるのです。

楽しい出来事があったなら、涙を流すほど喜んで、つらい出来事があったなら本気で悲しんで、

あなたの心を躍らせなさい。

「あなたの生きる力」になっていくのは、本当に心が踊った瞬間だけです。

「いつかやろう」「まだ無理だ」「ほかの人と違ったらどうしよう」

そう思って日々を暮らしているうちに人生は過ぎていってしまいます。

だから、みなさん

挑戦するのです。

失敗の先には成功があります。

あなたの人生の主人公は、あなた自身です。

人生を楽しみ、思う存分生きて「最高のあなた」を目指しなさい。

おわかれです、みなさん。元気です。

ありがとう。

さようなら。

令和五年、三月十七日 千葉市立高洲第三小学校

校長